

I — C — 17

桃仁抽出物と人工冬虫夏草の抗肝線維化作用について

1) 大阪市立大学医学部第一生化学 2) 同 第三内科 3) 上海中医学院

○劉 平^{1), 3)}, 森澤成司¹⁾, 溝口靖紘²⁾, 劉 成³⁾

【目的】肝線維症とは中医では瘀血を主な病機とする疾患であり、臨床的には桃紅四物湯で治療すると効果があることが示唆されている。また、演者らは動物肝線維症モデルを用いて、桃紅四物湯の各成分の抗線維化作用を調べ、桃仁水溶性抽出物にその作用があることを認めている。今回演者らは、日本住血吸虫症による肝線維症に対する桃仁抽出物と人工冬虫夏草の抑制効果を検討した。

【対象と方法】対象は日本住血吸虫症患者42例（男性30例，女性12例，半年以内に殺虫薬を服用したもの）で，治療群21例，対照群21例に分けられた。治療群には15%桃仁抽出物10ml（1.5g）に25%ブドウ糖注射液40mlを加えたものを2日間に1回注射し，人工冬虫夏草粉末3gを1日2回服用させた。対照群には25%ブドウ糖50ml，および小麦粉末3gを投与した。投与は150日間行った。治療前後に腹腔鏡検査にて肝の肉眼的および組織学的検索を行い，また，血清アルブミン，グロブリン，type-III-procollagen-aminopeptide（P-III-P），monoamine oxidase（MAO），肝組織collagenase 活性，尿中hydroxyproline（Hyp）排出量を測定した。

【結果】治療群で治療前後に腹腔鏡による観察が可能であった6例のうち，5例で肝線維化が著減し，その中の1例では肝臓がほぼ正常に復していることが認められた。対照群の6例では，1例で線維化がやや減少したが，4例に変化を認めず，1例で増悪していることが認められた。治療群では血清アルブミン（ $p < 0.001$ ），肝臓collagenase 活性（ $p < 0.05$ ）が有意に増加したが，対照群では有意な変化を認めなかった。血清P-III-Pと尿中Hypは治療群（ $p < 0.001$ ），対照群（ $p < 0.01$ ）ともに有意な増加を認めたが，この増加は治療群においてより著明であった。

【考察】日本住血吸虫症による肝線維症に対して桃仁抽出物および人工冬虫夏草を併用することにより，肝の線維化が軽減し，血清アルブミンも上昇することが明らかになった。肝臓collagenase 活性，血清P-III-Pおよび尿中Hypの変化から，この桃仁抽出物および人工冬虫夏草の抗線維化作用の一部が，肝のコラーゲン分解の促進によることが示唆された。